令 和 ５ 年 度　　学 校 経 営 計 画

１　学校教育目標

一人一人に応じた健康の回復を目指し、自己教育力の育成を図るとともに、進んで社会参加できる児童生徒の育成に努める。

＜校　訓＞　『　明朗　克服　協力　』

２　学校の特色

・在籍する児童生徒は、隣接する独立行政法人国立病院機構富山病院に入院して治療を受けており、常に病院との密接な連携の下、教育を実施している。
・児童生徒一人一人の実態を的確に把握し、障害や病気の状態に応じて個別の教育支援計画及び個別の指導計画を活用することで、一人一人に応じた指導の充実に努めるとともに、他機関との連携を推進している。
・児童生徒一人一人の病気の状態や障害の特性等を考慮し、ＩＣＴ機器を積極的に利活用しながら、基礎・基本の定着と個性の伸長を図るよう努めている。
・学校行事等の様々な体験学習を通して、豊かな知性と情操の育成を図るとともに、集団の中で協力し合う、豊かな社会性の育成を図ることができるよう、他学部・他学年との合同学習や行事等を通した交流の機会を設定している。
・年度途中での児童生徒の転出入が多いため、前籍校及び転出校との緊密な連携を図っている。

３　学校の現状と課題

・小・中・高等部においては、慢性疾患の児童生徒が著しく減少し、心身症や適応障害等の精神的な疾患の児童生徒がほとんどである。前籍校においては、不登校や保健室登校を経験していることが多い。これにより基礎学力や基本的な体力、対人関係、コミュニケーション能力等に様々な問題を抱えている。また、在学中のほとんどの時間を病院で過ごすため、社会経験が不足しがちで、卒業後の生活をイメージすることが難しい生徒も少なくない。
・訪問教育の児童生徒は、病気の状態の多様化や障害の重度・重複化がみられ、常時高度な医療的ケアが必要である。このため、学習時間や場所、活用できる教材教具等に制限が多い。また、継続的な入院生活の中で関わることのできる人が、家族、医療関係者、教員等に限られていることが多い。
・病弱の児童生徒の教育は、個々の発達段階に応じて計画的に実施し、授業方法や内容を工夫する必要がある。そのためには教師の高い専門性と共に、近年は特にＩＣＴ機器を活用しての授業展開が必要不可欠となっている。